

平成 25 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

法人名

聖公会北海道学園

概要

モデルスクールの概要（平成 26 年 3 月 26 日現在）

	モデルスクール名	幼児児童生徒数	教職員数
1	苫小牧聖ルカ幼稚園	54 名	14 名

【事業概要】

1. モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

近年の傾向として、子供に障害がある、もしくはその疑いがあることを知った保護者が、心の動揺と将来への不安をもって相談に訪れるケースが増加している。それぞれの幼児の障害種や障害の程度に応じて、幼稚園としてどのような支援を実施することが可能なのか、あるいは保護者の憂慮の深刻さをどのように受け止めて相談に当たればよいのかなど、幼稚園としての園内支援体制の整備が喫緊の課題となっている。

多様化する障害種に本園だけで対応することは困難であり、北海道立の関係機関からの専門的な支援も得ながら対応に努めているところである。

複雑で、時に深刻なこれらの課題に対して、本園が最も重点を置いているのは、対象幼児及び保護者、そして本園が協力し合いながら、幼児にとってよりよい支援方法を共に探っていくことであるが、これまでの従来の取組に加えて、学びの場や家庭での様子等から得られた情報をより専門的な視点で分析・記録して、次の配慮へと展開していくことが必要である。

これまでの本園での取組については、障害の有無に関わらず、共に学んで共に生きるというインクルーシブ教育の理念に合致するものと考え、本事業での取組を踏まえて更に推進していくこととした。

2. 取組の概要

本園では、毎月 1 回のペースで、障害のある幼児全員について個別の検討会を行ってきたが、本事業を受託したことを受けて、対象幼児に関する合理的配慮の内容についても検討した。

平成 25 年度は、障害のある幼児一人一人について、個別の教育支援計画の作成・活用にも取り組んだ。別に記録している、個別記録との併用によって、対象幼児の生活上及び教育上の課題が明確になる利点があり、活用の意義について全教職員間で共通認識を図ることができた。

本園、療育機関の関係者及び医療関係者が、それぞれの立場からの検討を行う場も設定した。この中で、一人一人の障害の程度に応じた支援手法の詳細が協議されたと同時に、インクルーシブ教育に関する園内研修を実施して、園内での支援体制を強化するとともに、重点的に取り組むべき項目について明確にし、全教職員で共通理解を図った。

また、保護者との面談を通じて、幼児の家庭での様子や将来に向けての願いなどについて定期的に聞き取りを行い、また保護者の不安な気持ちなどについても十分に受け止め

ながら、対象幼児への合理的配慮の在り方と効果的な支援方法について一緒に検討していくことを重視した。

3. 成果及び課題

これまで本園が実践してきた「障害のある子もない子も共に生きる」ことを目指した教育方針を、外部の関係機関等からの専門的な助言等も踏まえて客観的に評価できたことは、本園のこれまでの取組が有効な支援への礎となったことを再確認することにもつながり、教職員にとって大きな励みとなった。また、一人一人のニーズに応じた合理的配慮の実践へとつなげていく取組は、教育の原点を考える上での貴重な契機となった。

また、本事業を契機として、保護者、療育関係の各関係機関及び本園との間で情報交換する機会も作られ、困難な課題に直面しても、互いに連携して積極的に取り組んでいこうとする姿勢が確保できた。また、保護者との合意形成のもと、より効果的な合理的配慮を実施することができ、家庭での様子等について密に連絡を取り合うことにより、少しずつでも対象幼児の成長を確認することができた。

今後の課題としては、多様化する障害種に対処するための研修体制の充実及び十分な専門性の確保、園内での支援体制の強化、就学先の学校や関係機関等との連携体制づくり、就学先への十分な情報提供、個別の教育支援計画の有効な活用方法等である。

平成25年度の事業を通じて培った基盤を有効に活用して、障害のある幼児の充実した生活への支援に今後とも尽力してまいりたい。また、地域の特別支援学校のセンター的機能を活用するなどして、積極的に外部の関係機関とも連携しながら、支援の充実へとつなげていきたい。